

就職に高い関心

全学保護者懇談会に2000人

の就職環境の厳しさに
対応した、本学内開催の

合同企業説明会、就職試験対策講座などの就職支援策についても紹介しました。就職支援センターを訪れ相談する保護者も多数いました。
その後、保護者は5号館食堂を会場に、学部ごとに教員との個別面談に

臨み、学生生活や資格課程等履修を含む学習状況について話し合いました。
なお、経営情報学部は同懇談会を10月1日、富山市のANAクラウンプラザホテル富山でも開催します。

秋の交通安全指導実施

金沢学院大学と金沢学院短大は、後期の授業が始まった9月20日から22日の3日間、阿手雅博全学学生委員長はじめ28人の教職員による全学的な交通安全指導を行いました。
台風15号の影響で、激しい風雨となった3日間でしたが、金沢中警察署交通官と北陸鉄道職員の協力のもと、東高校のバス停前と大学正門周辺で、登校してくる学生に笑顔で「交通安全」を呼び掛けました。



教員とひざを交えた個別懇談

=5号館食堂

金沢学院大学・金沢学院短期大学の保護者懇談会は9月17日催され、保護者約200人が参加しました。大学、短大に会場をわけた後、就職支援センターの担当者が、学年ごとの就職への取り組み方について細かく

説明しました。さらに「就職先は探せばあります。まず、自ら積極的に動くこと、就職について家族で話し合うこと、自分を高める努力をすること」などの日頃のちよつとした努力の大切さを力説しました。その上で、今日

働くことの重さ実感

インターンシップ報告会

金沢学院大学・金沢学院短期大学のインターンシップ報告会が9月16日、2号館で開催されました。大学3年生と短

大1年生合わせて49人が夏休み中、北陸3県中心の39企業のインターンシップに参加しておりました。その就業体験を通して感じたことや学んだことを発表しました。

北國新聞社で学んだ学生は、社会部の記者に同行し取材した記事を添削してもらったら、ほとんど全部を直されてしまったことや夜も遅くまで働いている新聞記者という職業の大変さを垣間見た思いがしたということを報告しました。

また福祉施設で体験した学生は、少しでもお年

寄りの役に立ちたいと思つたけれども、お年寄りをお風呂に入れたりすることや、爪を切つてあげるのも「資格」がいることを知り、「資格」の大切さを再認識した、との発表がありました。
どの学生たちも、実際に就業体験をして、働くことの意味の重さをあらためて考えたり、社会人になるための自分のいたるなさを痛感したようです。

インターンシップの報告を聞いた先生方からは「この就業体験を生かして、自分はどうな職業に就きたいかを真剣に考えてほしい。そして、新聞を読むなどして視野を広げ、今後の採用試験に備えてほしい」などの貴重なアドバイスがありました。



就業体験を報告する学生
=2号館講義室



交通安全を呼び掛ける教職員
=正門付近